

すずらん

鈴蘭会会報誌
2011, Second Issue
Vol.02



鈴蘭会



Photo: 役員会での打ち合せの折



鈴蘭会

「第1回素読体験会 in 横浜」
のご案内

安倍昭恵名誉会長

被災地で感じたこと

伊藤一三氏

「改めて徳について考える」

「第1回素読体験会 in 横浜」のご案内



そとく
私と一緒に素読を体験しませんか？

鈴蘭会名誉会長 安倍 昭恵 安倍晋三元首相夫人

寺子屋で子供たちが師範の音読に続いて大きな声で論語を読み上げる、時代劇でおなじみの光景。
それが「素読」です。素読こそ、世界に賞賛された日本人の高い道徳性を作った要素のひとつ。
鈴蘭会の「第1回 素読体験会 in 横浜」で、ぜひ素読に、そして美しい日本の心に接してください。

開催日時

2011年9月10日(土)
14:00～16:00(開場 13:30)

会場

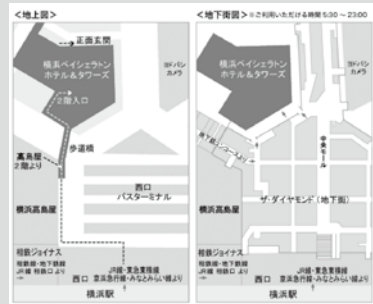
横浜ベイ・シェラトン ホテル&タワーズ
5F「日輪IV」
神奈川県横浜市西区北幸1-3-23

参加費

3,000円
(ケーキ・コーヒーまたはソフトドリンク・資料代込)

周辺地図とアクセス

横浜駅(JR線・私鉄各線・横浜市営地下鉄)
西口から徒歩1分
※お車での来場はご遠慮ください。



「鈴蘭会役員」(敬称略)

◆名誉会長

安倍 昭恵
安倍晋三元首相夫人

◆会長

安松 鈴代
知心学舎主宰

◆相談役

石村 僭悟
石村萬盛堂社長

◆顧問

岩國 哲人
元メロリンチ米国本社上席副社長
元島根県出雲市長
前衆議院議員

◆山谷 えり子

参議院議員内閣委員
参議院議員内閣委員
参議院議員内閣委員

◆伊藤 一三

生産性劣使会議事務局長
財団法人 日本生産性本部 社会労働部 参事
全国若者支援ネットワーク協議会 事務局長

◆西村 正信

加地 良光
TVQ九州放送 企画営業室

◆配川 博之

衆議院議員 安倍晋三元首相秘書
衆議院議員 安倍晋三元首相秘書

◆地域支援長

佐々木 敦子(山口)
町田 文工(関東・東京)
花田 かをる(福岡)
新田 康子(関東・横浜)
山本 恵美子(関西)

◆事務局

加地 まひる

被災地で感じたこと

名誉会長 安倍昭恵



三月十一日の東日本大震災より、

まもなく半年を迎えようとしています。月日の過ぎるのは早いものながら、千年に一度という大震災に見舞われた被災地ではいまだに復興が進まず、この猛暑の中に何万人もの方々が避難生活を余儀なくされていらつしやいます。

私も震災直後から、救援物資を携えて何度か現地に足を運びましたが、被災地の惨状はメディアに報じられるよりもはるかにさまざま、言葉を失うばかりのものでした。改めましてここに、この度の震災で亡くなられた方々のご冥福を

お祈りいたしますとともに、被災さ

れた皆様に心よりお見舞い申し上げます、一日も早い復旧復興を願うばかりでございます。

今回の震災ではさらに原発事故という予期せぬ事態まで重なり、それは被災地の方々ばかりでなく、私たち日本人の心に深い傷跡を残すものとなりました。

こうした過酷な時代状況に直面させられた今こそ、私たちは私情を越えて心を強く結び、尽くし合うことでこの苦境を乗り越え、次代を担う若者・子供たちの未来も、希望に満ちた形に築いてゆく責務を求

められているように感じられてなりません。

鈴蘭会でも少しでも被災地の皆さまの心に寄り添い、復興への足並みを共にしたいとの思いから、活動を通じての被災地復興が何か出来ないかと、ただ今模索をしているところでございます。

今後とも何卒、皆さまの温かいご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



安倍昭恵さんのプロフィール

元総理大臣「安倍晋三」氏の夫人。1987年、職場の上司の紹介で安倍晋太郎元外相(故人)の秘書を務めていた安倍晋三氏と結婚。また、2006年に「安倍昭恵のスマイルトーク(<http://akie-abe.jp/>)」という自身のブログを開設。

PRAY FOR JAPAN

改めて

「徳」について

考える



略歴
青森県弘前市出身
大学卒業後(財)日本生産性本部入職
主に労働関係、経営・環境・エネルギー
問題、ニートを中心とした若者の自立
問題を手がける。
現在生産性労使会議事務局長

伊藤 一三

この度の東日本震災の被災者の皆様方にこの紙面を借りて謹んでお見舞い申し上げます。筆者も東北地方出身の一人として他人事とは思えない心境にありますし、被災状況を画面で見ると心が締め付けられる思いがいたします。一日でも早く復旧、復興できるようにお祈り申し上げます。

さて今、わが国ではこの国難の状況下にあつて政治は無用な政権争いとしか言いようのない見苦しい状態にあります。被災した人々を政争の具に使い、国会論議でも野党は政権奪取のためとしか思えない言葉の揚げ足取りだけの批判ばかり、政権与党は与党で感情論で党内が二分三分してしまつてい

る等、目に余る最悪な症状を呈しています。まさに子供のけんか状態です。この国が危機的困難の中にあつて、現在の政治の姿に対し、一人の国民として怒りを通りこして情けなさを感じております。我々国民は、この程度の議員を選んでしまつた自分たちの判断を反省し、次なる選挙に向けての新たな決意を迫られていることを自覚すべきだと思います。同時に、なぜ政治がこのような状況に陥つてしまつたのか、改めて考えてみたいと思います。

わが国では現在、自分の国は自分たちが守るといふ気概の無い平和主義や、議論を尽くすことなく多数決という数の論理だけが原理となつている民主主義、勝手気ままこそが自由であるとする規律なき自由主義、この国の将来像を示せないなかで批判だけを旨としている議会制度、利権の確保と政権維持自体が目的化した理念なき政党政治、自己の名誉欲と金銭欲を最優先する議員を選ぶ選挙制度等、長年にわたつたの様々な問題が存在しています。この問題の本質は、安易に諸外国から制度の「形式」だけを導入、あるいは強制され、その「意義」について理解しようとしなかつたことや、経済成長の過程で日本人としての精神、「徳」を忘れてきたことから生じた陰の部分でもあると思われ

ます。高い志を持ち、無心で国民の幸せを願つて政治活動をしている、それこそ「徳」のある政治家もなかにはいるに違いないと信じてはいるのですが…。

わが国では古来から誠実、謙虚、温情、理性、配慮といったことが、人が社会の中で他者と共存して生きていくための知恵として共有されて来ました。地域社会との調和を図り、また他人を思いやる気持ちがそれぞれの中しつかりと根ざしてもいました。つまり人々が公と私の区別を意識し、公があつての私であり、それなくしては地域を含めた共同社会が成立しないということに自覚して生きてきたといえます。まさにそれこそ「徳」を普通に備えていた善き人間としてのあり方だつたと思えます。「徳」を備えた人間は、他の人からの信頼や尊敬を獲得しながら人間関係の構築や組織、社会の運営に参加するための大事な要素を持つていることは間違いありません。

ものの本によると、「徳」とは人間の持つ気質や道徳性が發揮されたことをいうようです。この本質的な意味合いは洋の東西を問わず共通している概念で、英語では VIRTUE といい日本語と同じような意味合いがあり、古くはラテン語の VIRTUS に由来していま

す。中国でも儒学においては重要な概念であつたようです。具体的には仁・義・礼・智・信の「五徳」の実践的な概念として表されております。いずれにしても古来から人間が生きていくうえで重要な価値観であることは間違いありません。以上限られた文字数の中、拙文に終わったようです。意のあるところをお汲み取りいただければ幸いです。

最後に、この鈴蘭会が、「論語」等の素読を通して「徳」のある人間形成や社会の構築を実現できるよう願つてやみません。



白狐の まほら探訪記

水の章

葛木 美沙

とは言え、蛇口から当たり前に出ないという現実を目の当たりにしたこと、それは時期的にも実にショッキングな体験となった。夕方の予定時刻通りに水道が開通した時には、蛇口から勢いよくほとぼしる水を前に、大ききにも手を合わせたい思いに駆られたものだった。

近年、巷ではスピリチュアルブームとやらで、「パワースポット」とされる聖地や寺社を訪れる人々が増え、ある種の社会的ブームにもなっている。

私もいさか芸事の世界にかかわり、日本の伝統芸能の源流をたずねるうちに、おのずとそうした信仰の場にも引き寄せられ、多くの地を訪れてきた。そうしてやがて、「パワースポット」には「御神水」や「ご霊水」とされる水場があることが多いことに気付かされてきた。

その水を飲めば開運のご利益が頂ける、あるいは万病に効くとも伝えられ、水を汲むために遠方より訪れる人も少なくないという。

特別な信心者でもない私も、訪れた先に「御神水」や「ご霊水」があれば必ず頂き、ペットボトルに汲んで持ち帰ることもある。そうした水場では様々な人に会ったものだ。

ポリタンクを抱えて毎日水汲みに通うという近隣の住民の方、ガイドブックを片手に訪れ互いに写真に撮り合う若い女性グループ。その聖地のいわれや水の効能を、延々と語り聞かせてくれる人もあった。中には実際に家族に深刻な病状の人を抱え、万病に効くとの伝えを頼りに墓にもすがる思いで訪れる人もあるのかもしれない。

しかしそうした水の実際の効能はどれほどのものだろうか。

古来聖地とされる場所は、自然豊かな所であり、そこに湧き流れる水も水道水よりミネラル豊富な天然水であれば、確かに健康にはよきそう。

それでも万病に効くというのは、開運のご利益と同じに、その水への信心によってもたらされる心理的なプラセボ効果の側面が強いように考えられる。とはいえ、それで実際に病が癒えたり、人生に良い展開が得られたりするならば有り難い話に違いない。

そうした水への信仰は、伝統的な自然崇拜にもとづく日本人独特のものだろうかと考えながら、西洋にも「ルルドの泉」のような例があることを思い出す。生命の源である水に人知を超えた奇跡を求めて信仰を寄せるのは、民族や宗教の垣根を越えた人類普遍の心情

なのであろうか。今後も科学文明や医療技術がどんなに進歩しようとも、霊験あらたかな水を求めて聖地を訪れる人々の姿が絶えることはないだろう。

それにしても現代の日本は、水道の蛇口をひねればそのまま飲める水があふれるという、世界的にも珍しく恵まれた水事情にある国だ。にもかかわらず人々は、「御神水」だけでなく〇〇に名水ありと聞けばわざわざ汲み出かける、あるいは製品化されたものを取り寄せる傾向にある。国内外の高価なミネラルウォーターを購入し、特別な水を常飲することをステイタスとするような方もしばしば拝見する。市場にも美容や健康への様々な効能をうたった新製品が次々に現れ、そうした風潮にさらに拍車をかけているようだ。

ミネラルウォーターの効能までも全くのプラセボではないだろうが、それを体によいものとして飲む心情もまた、どこか信心に近いように感じられる。

もとよりミネラルウォーターは、水道水が飲用に適さないヨーロッパの都市圏で普及したもので、そうした水事情が悪い諸国では古い時代から、町や村でも飲み水を売る行商人の姿が日常的であったという。

一方山紫水明のわが国では、古より河川の水も清く豊かで、日常の飲料水に困ることはなかったらしい。

しかしそんな日本でもすでに江戸時代、遠方より汲んできた水を「〇〇の名水」と売る商人の姿が江戸の町には見られ、上水道が整備された地域に住みながら、飲用水はわざわざ水売りから買う人々が庶民にも少なくなかったというから驚きだ。

水道の歴史は古代ローマにまでさかのぼるが、日本では戦国時代に北条氏によって小早川上水が開かれたのが始まりとされる。

その後幕府によって江戸城下に整備された上水設備は、世界的にもかなり進歩的なもので、産湯を水道水で浴びたことが江戸っ子の、都会者としての誇りだったとも言える。

江戸の水道は各戸に引かれたものではなく、地域での共同井戸のような形式だったそうだが、水源が汚染されないよう幕府は厳重な注意を払い、水質の管理も徹底されていた。

そうした当時としては良質の上水道設備から供給される水を享受しながら、飲み水は他に選んで購入する江戸の人々の姿は、そのまま現代の我々にも重なるようだ。

江戸の頃はようやく戦国の世が終り、長く平穏な社会状況を背景に町人文化が大きく発達した時代でもあった。そうして見ると、人々がより美味しく質のいい水を求め購うことが出来るのは、平和と豊かさの象徴でもあり、文明の進化の一端でもあろうか。

さらに町人文化の円熟は料理の発達にも大きく影響を及ぼし、世界に誇る日本料理の基礎が作られたのも江戸時代だった。献立や調理法に工夫と洗練が重ねられるにつれ、食材に酒・調味料の製造技術や味わいが各地方で極められ、そこにも水へのこだわりが地域ごとに反映されていく。上方と関東の料理の味付けの大きな違いも、水の違いに影響されたものだろう。

そもそも農耕民族である私たち日本人の生活は古代より、まさに豊かな水資源に依拠するもので

あった。弥生以来の水田での稲作を中心とした農村の作りも、まず水資源を確保しやすい河川沿いに定住し、その水を集落内に引き入れて農業・生活用水とする、常に水と隣り合わせの形態が現代まで続いている。

しかし、普段は恵みの源として頼みの水資源も、干ばつや洪水のように自然界からの供給のバランスが崩れた途端、人間に甚大な被害をもたらす脅威になり変る。

そこで人々はまず、古くからの信仰のもとに水の神を祀り、祈りによって水を鎮めることをはかっていた。

やがて文明が進むにつれ次第に治水・灌漑技術も発達し、人は神に祈るだけでなく、自らの手で水を制することも出来るようになってきた。



京都・鞍馬山中「義経息次(いきつぎ)の水」
源義経が奥の院への修行に通う道すがらにのどを潤した泉と伝えられる。
今も当時と同じに、清水が湧き出ています。

我々が現代に享受している水道設備もその延長線上にあることは言うまでもない。

ある日の些細な断水をきっかけに、日本人と水の関わりから水道の歴史まで、気の向くままに調べらるうちに、毎日当たり前に蛇口からコップに汲み受ける一杯の水も、我々の祖先が水との共生をはかって培ってきた努力と叡智の賜物であることを改めて知らされた。すると水道水が何とも有り難いものに思われてきて、個人的には、近頃ミネラルウォーターを購入することに些か抵抗感を覚えるようになってしまった。

水道水は天然水に比べて美味しくないとも言われるが、熊本市のように阿蘇山系の地下水を水道水として供給している例もある。最近では水道水を商品化してペットボトルに詰めて販売している自治体もあるぐらいだ。狭い日本を旅すれば、どこに行ってもお国自慢は米自慢・酒自慢にお湯自慢、そして結局水自慢に尽きる。立ち返ってお国の膝元の水道水を今一度味わってみたら、それがまた意外な名水との出会いとなるかもしれない。

確かに、水道水も安全性の面で色々な問題が指摘され、そのために飲用水として敬遠される向きもある。しかしライフラインとして



出雲大社の御神水「真名井の清水」
境内から離れた所にあるため一般にはあまり知られていないが、ここの清水は出雲大社の神事には必ず使われる貴重なもの。開運の御利益も高い御神水とされている。

の水道が急に断たれてしまったらどうなるか。それだけでなく、ひとたび水道水が汚染された場合の恐怖も、我々はごく最近に他人事ではなく味わったはずである。水道水の充分な供給、その質の向上と安全性の保持のために、今後一層の尽力がはかれるべきことは言うまでもない。

名水の郷も、みだりな採水のために水源枯渇の危機に瀕している所もあるという。水道水にせよ天然のミネラル水にせよ、その水源を涵らさぬためには日本の山河を豊かで健やかなままに守り続けること、それが水を享受するすべての者にとつての課題であり責務でもあるだろう。

戦後まさに「国破れて山河在り」という状況から復興を成し遂げて今に至つた日本。それが将来「国在るも山河廃(すた)る」とならぬよう、未来への羅針盤の向きを新

たに定め直すべき時が今、私たちにもたらされたのかもしれない。

追記・寺社の霊水やその境内の池や泉には、「この水が潤れると世に凶事がある」との言い伝えがあるものが少なくない。

実は「パワースポット」とされるような古くからの聖地・神社仏閣は、なぜか断層上かその沿線にあるものが多い。(日本最大の断層・中央構造線上に、伊勢神宮を始めたとする名だたる古社や聖地が連なつてあるのは、よく指摘される所である)そうした所の水が潤れることはつまり、水脈にも影響を及ぼす地質学的な変化がその地域で起きていることの予兆である場合も考えられよう。古くからの言い伝えはただの迷信とばかりに切り捨ててではなく、新たに科学的視点を加えての再検討が今後必要に思われる。

「ごあいさつ」

八月の空は、どこまでも青く晴れています。この空の下、先の大戦で南の島に行つたまま帰つてこない父と叔父たちのことを、私は考えました。暑い日が続いております。三月におこつた東日本大震災で亡くなられた方に、心よりご冥福をお祈り申し上げます。と共に、現在も故郷を失い避難所や離れた土地で生活していらつしやる方々の事を思うと、胸を締め付けられる思いが致します。私たち鈴蘭会は、被災地に対して何かお手伝いが出来る事がないか何回か話し合いました。その結果として私たちに出来る事は、寄り添う事ではないかという結論に達しました。そういえば先の大戦の焼け跡を見た私は、周囲の生活が日常に戻るにつれて、主を失つた私たちの生活は厳しいものになつたのを今でも覚えております。被災地の方々も社会の関心が薄れ、人々の記憶から薄れていく時に本当の苦しさ・厳しさが来るのだらうと思ひます。

鈴蘭会では継年、鈴蘭会の会員様から戴く会費の一部を、支援金として応援させて頂く事にしました。どうか会員の皆様、ご協力をお願い致します。

そして被災地の方々と笑い合える日が来るのを願っております。

鈴蘭会会長 安松鈴代

鈴蘭会の活動趣旨にご賛同いただき、ご支援をお願い致します。

〈お申し込みと年会費のご案内〉

ご支援を頂いた方には会員証をお送りさせていただきます。

1. 年会費
 - ①個人会員:1口 5,000円
 - ②企業・団体会員:1口 10,000円

2. 申込・会費納入方法

銀行備え付けの振込用紙にお名前とご住所をご記入の上、下記銀行口座宛にお振り込みください。

ゆうちょ銀行 口座 01750-4-55199 ※払込取扱票をご利用ください。

名義:鈴蘭会(スズランカイ)

福岡銀行 博多駅前支店 普通2915483

名義:鈴蘭会 会長 安松鈴代(スズランカイ カイチョウ ヤスマツズヨ)



「鈴蘭会活動報告」

●毎月第三火曜日
少年院での素読指導

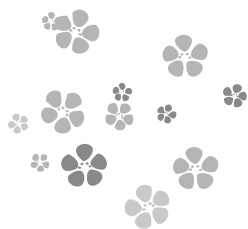
●毎週金曜日
西日本短期大学サテライトオフィス「くるくるTojoin」での素読会

「平成23年度活動予定」

●毎月第三火曜日
少年院での素読指導

●毎週金曜日
西日本短期大学サテライトオフィス「くるくるTojoin」での素読会

〈会員の皆様へ〉
皆様からのご意見、ご投稿等をお寄せください。
編集部より



鈴蘭会活動趣旨

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、この度、私たちは、日本の将来を担う青少年の人格教育を推進し、内面から、美しい国づくりに参加して行くための会を平成二十一年六月に発足いたしました。

この会は、江戸時代に寺子屋教育で行われ、若者の心に、活気・自信・意欲を与え、精神力を養うための大きな効果をあげていた『素読』を、現代に普及させる推進活動を中心に行う会です。

漢文の古典を音読していく素読は、「四書五経」の中の「大学」「中庸」「論語」などを毎日、声を出し、姿勢を正して読みます。不思議に無気力といわれていた若者が何の疑問も持たず、すすんで参加し、生き生きとした表情に変わって行きます。実践的な先人の英知が、彼らの体に活力を与えて行くものです。

私たちは、多くの皆様とともに、全国に活動を広げてゆきたいと考えております。どうか皆様には、会の理念にご賛同いただき、ご加入、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

謹白

目的及び事業の設定

〈活動目的〉

『素読』を通して、将来の日本を担う青少年の人格教育を推進することにより、美しい日本国により内面的充実を図る。

〈主事業〉

↳目的実現のために

・あらゆる教育機関に対し、教科外授業としての素読の有効性について、啓蒙活動をすると共に、その活用を推進して行きます。

・少年院など罪歴者の再犯率ゼロを目指して、効果の観面性から、課業に素読の導入を促すための運動をして行きます。

・現役引退者世代の再社会参加を活性化させるため、素読指導者養成を各地域活動として広めていきます。

〈お問い合わせ先〉

- 鈴蘭会事務局 -

〒811-4175 福岡県宗像市田久1-6-13 桔梗ビル1F HP:www.suzuran-kai.org

TEL:0940-32-8150/FAX:0940-32-5633